

ファミリー・サポート・センターの現状



2007年10月スタート(現在、運営して丸2年)
たかまつファミリー・サポート・センターの現状
※高松市の人口約41万人

毎火曜定休、それ以外は朝9時から午後5時まで。
スタッフ3名(うちローテーションで2名が常勤勤務)

10月現在、

- *まかせて会員(提供会員)453人
- *おねがい会員(依頼会員)637人
- *両方会員91人

合計1181名の会員

活動は毎日少ない日で5組、多い日で15組程度が活動している。

- *活動内容(累計)は
 - 預かり(どちらか宅での預かり)が2317件
 - 送迎が1745件ほか

ファミリー・サポート・センターの現状



* 活動内容(累計)は

- 預かり(どちらか宅での預かり)が2317件
- 送迎が1745件ほか 1日5~15件の活動

預かりの内容

<保護者が仕事をしている場合>

学童保育への迎えから預かりのケース

朝の預かりから保育所等へ連れていくケース

繁忙期のみ夜間預かり(夜10時過ぎまでなど)

土日(保育園・学校が預かってくれない時間)の預かり など

<片働き家庭の場合>

産前産後のフォロー

産前産後の上の子どもの預かり・送迎

リフレッシュ(理由問わず)・母親の習い事等での預かり など

<それ以外の場合・預かれないケース>

それ以外のケースや預かれないケースが増えている

<やっぱり預けない・預けられないケース>

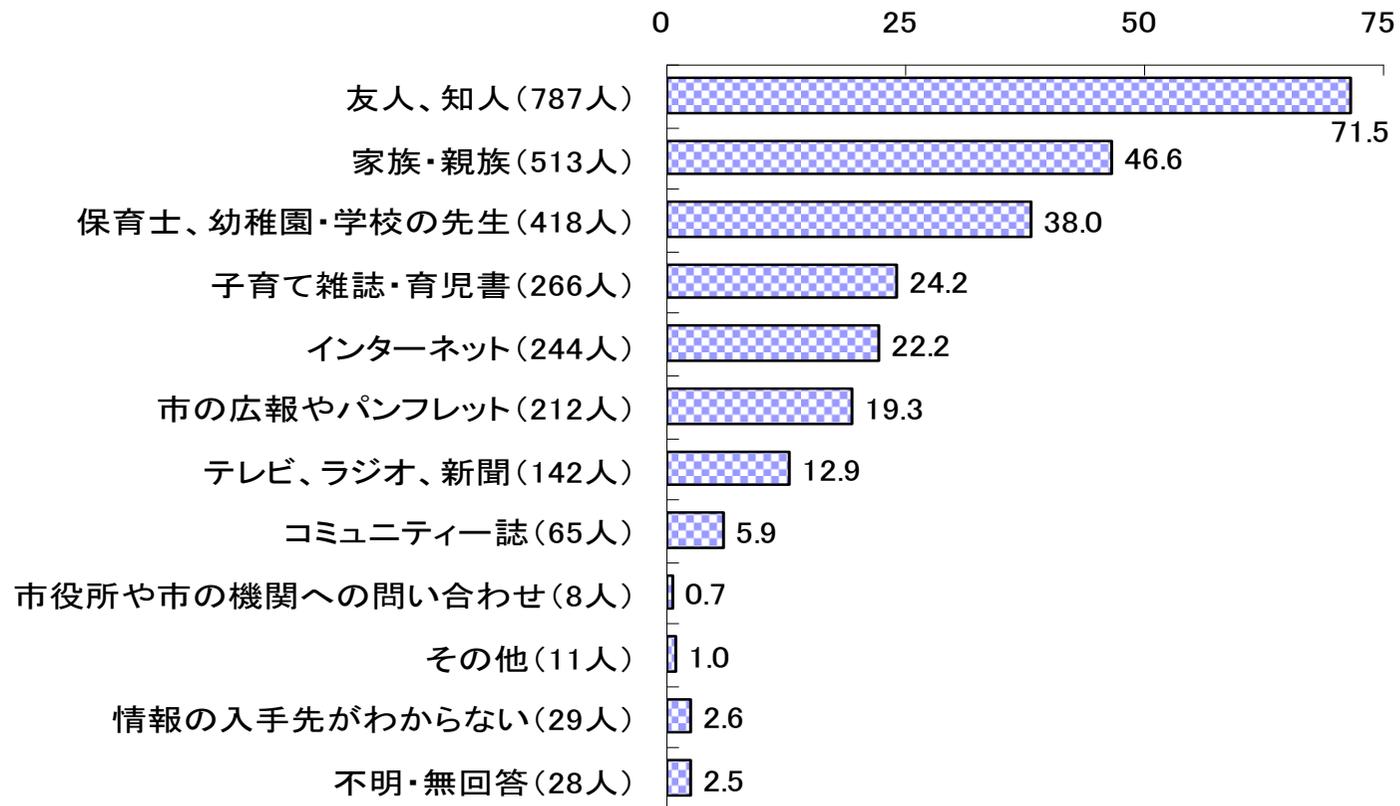
地域子育て支援の現状



Q 子育てに関する情報をどのように入手されていますか？

サンプル数：1,100

単位：%



地域子育て支援の現状

わはは・ひろばの場合

- ・子どもに靴を履かせるタイミングで「実はあのね...」と相談してくる親
- ・表を掃除するとき「ちょっと...」と相談する祖父母や地域の人



- ・他機関との連携の必要性(産院、保健センター、幼稚園等)

地域子育て支援拠点とファミサポ運営を通して感じている、不足している支援形態



- ・役所でも、保育園でも把握できない「グレーな家庭」の多さ
(親としての学びの場がないことも問題かも)
- ・一時預かりなどのサポートが必要かどうかは、短時間の相談や本人ではわからないことが多い
(気軽に預けられる場の不足も問題かも)
- ・様々な機関と連携しながら支援をしないと、隙間ができてしまう状態
(連携するにはファミサポやひろばなどNPOの仕事の外的認知が低いかも)



まず、ファミサポやひろばで起きている日報にもかけない実態を行政が把握できる仕組みが必要

そして、様々な機関と連携できる体制づくりが必要

そのためには様々な機関の特性や担当者の顔がわかり、話ができ、柔軟に動けるコーディネイターの役割の人が市町単位で必要